

# LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ ファンド<愛称：アメリカンパワー>

追加型投信／海外／株式

## 交付運用報告書

第10期（決算日2016年7月22日）

作成対象期間（2015年7月23日～2016年7月22日）

第10期末（2016年7月22日）	
基準価額	19,779円
純資産総額	251百万円
第10期	
騰落率	△12.0%
分配金（税込み）合計	0円

(注) 騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社のホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>  
ホームページの「ファンド情報・基準価額一覧」等から当ファンドを選択することにより、運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

### 受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ファンド<愛称：アメリカンパワー>」は、2016年7月22日に第10期の決算を行いました。

当ファンドは、元本の長期的な成長を目指して運用を行いました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

**レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社**

東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

お問い合わせ先

TEL 03-5219-5947

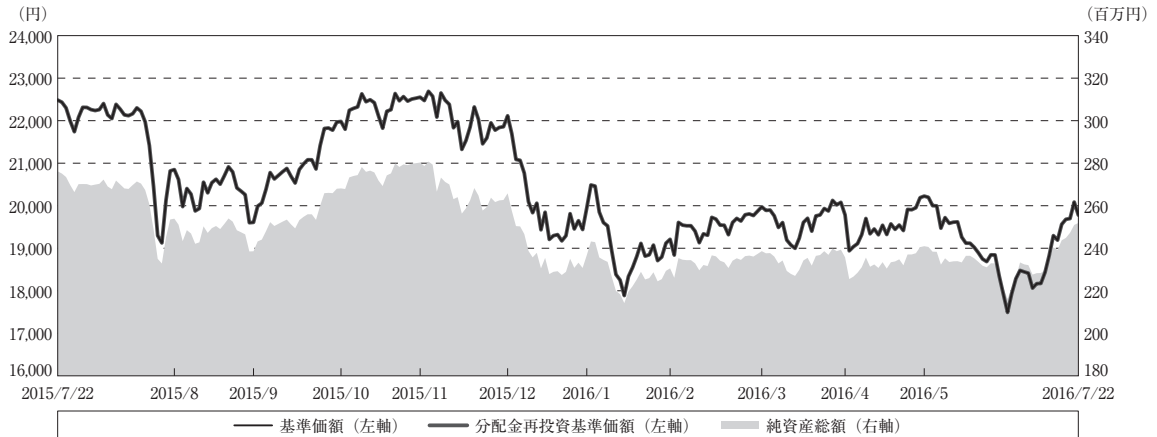
（営業日の9:00～17:00）

<http://www.leggmason.co.jp>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2015年7月23日～2016年7月22日)



期 首：22,484円

期 末：19,779円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△12.0% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2015年7月22日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

期末 (2016年7月22日) のLM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ファンド (以下、当ファンド) の基準価額は19,779円となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス (騰落率) はマイナス12.0%、基準価額は2,705円下落しました。

米国株式相場の上昇を背景に、株式要因はプラスとなりました。一方、為替要因については、米ドル安・円高の進行を背景にマイナスとなりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 367	% 1.782	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率
(投信会社)	(189)	(0.918)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(167)	(0.810)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	( 11)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.018	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数
(株式)	( 4)	(0.018)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税	0	0.000	(c) 有価証券取引税 = 期中の有価証券取引税 ÷ 期中の平均受益権口数
(株式)	( 0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用	46	0.225	(d) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 36)	(0.173)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 3)	(0.015)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷等費用)	( 7)	(0.035)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
(その他)	( 1)	(0.003)	権利配当処理に伴う費用
合 計	417	2.025	
期中の平均基準価額は、20,570円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

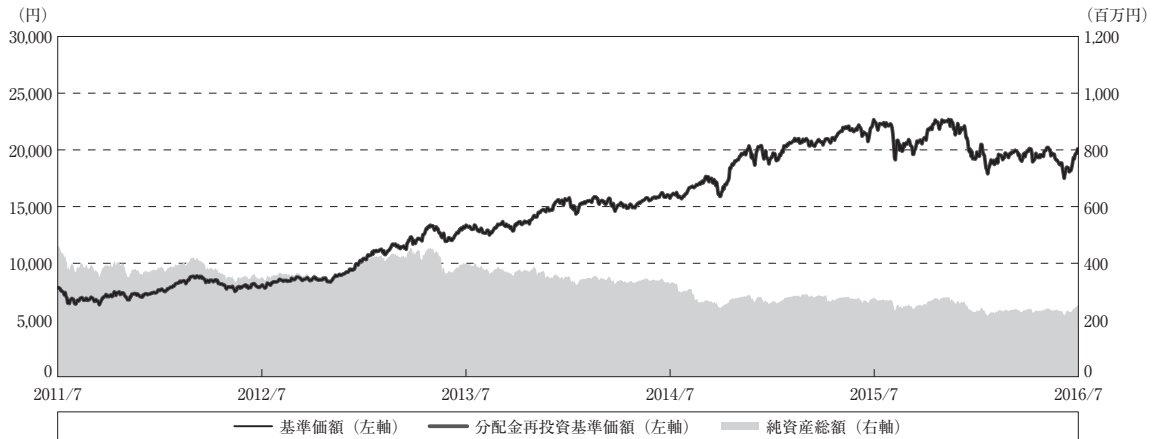
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2011年7月22日～2016年7月22日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2011年7月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2011年7月22日 決算日	2012年7月23日 決算日	2013年7月22日 決算日	2014年7月22日 決算日	2015年7月22日 決算日	2016年7月22日 決算日
基準価額 (円)	7,843	7,996	13,263	15,910	22,484	19,779
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.0	65.9	20.0	41.3	△ 12.0
純資産総額 (百万円)	459	347	397	330	276	251

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- (注) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較していません。

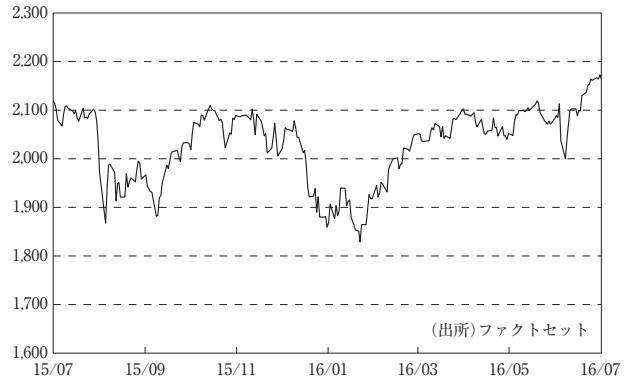
## 投資環境

(2015年7月23日～2016年7月22日)

## ① 米国株式市場の動向

当期の米国株式相場は、上昇しました。期の前半は、中国人民銀行が人民元の切り下げを発表し、中国景気の先行き不透明感が広がる中、株価は大きく下落しました。その後は、欧州中央銀行（ECB）による追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどが好感され、株価は上昇しました。期の半ばは、中国経済の先行き不透明感や原油価格の下落を受け、世界的に株式相場が軟調となる中、米国株式相場も下落しました。欧州の金融機関の財務悪化懸念が浮上したことも、株価の下落を促す要因となりました。その後は、原油価格が反発したことや、欧州金融機関に対する過度の懸念が後退したことなどから、株価は反発しました。期の後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による今後の利上げが緩やかなペースにとどまるとの見方が広がったことなどから、株価は上昇傾向となりました。その後、英国の国民投票で欧州連合（EU）離脱が決定したことを受けて売り圧力が強まる場面が見られたものの、米国景気の先行き期待などを背景に、株価は堅調に推移しました。

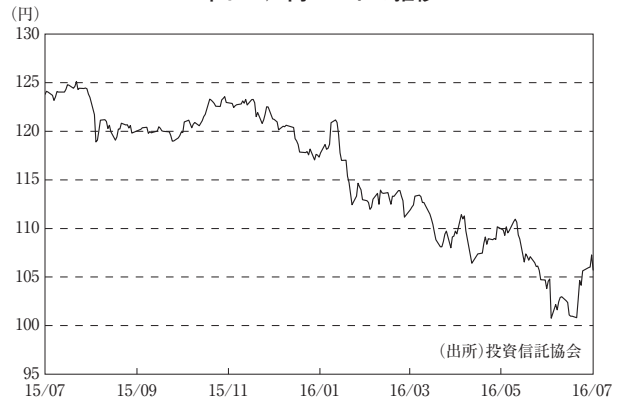
米国S&amp;P500指数の推移



## ② 為替市場の動向

当期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。期の前半は、世界的に株式相場が下落し、米国株式相場も大幅下落となったことから、リスク回避に伴う米ドル売り・円買いが強まりました。その後も、米ドルは対円で上値の重い展開となりましたが、ECBによる追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどを受けて、リスク回避姿勢が後退したことから、底堅く推移しました。期の半ばは、原油価格が下値を探る展開となる中、リスク回避姿勢が改めて意識されたことから、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、日銀によるマイナス金利の導入を受けて米ドルは対円で上昇しましたが、FRBによる追加利上げが先送りされるとの見方が広がると再び下落しました。期の後半は、FRBによる今後の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がり、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後は、英国の国民投票でのEU離脱決定を受けてリスク回避姿勢が強まったことから、米ドル売り・円買いが進みましたが、米国景気の先行きに対する楽観的な見方が広がると、米ドルは反発しました。

米ドル／円レートの推移



**当ファンドのポートフォリオ**

(2015年7月23日～2016年7月22日)

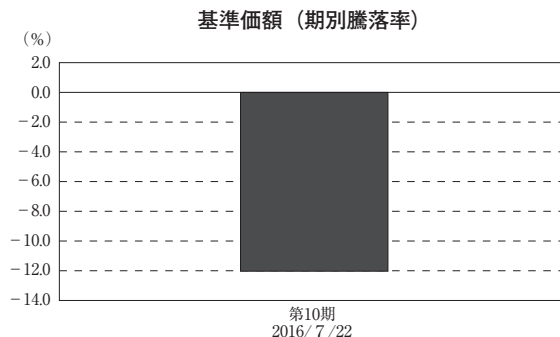
当ファンドは、主に「LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、個別企業の徹底したファンダメンタル分析に基づき、魅力的な成長が見込める米国の大型成長株を中心に銘柄数を絞り込んで投資することにより、元本の長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。当期の運用においては、大型の米国企業の発行する株式を中心に投資を行い、経営能力が高く、長期にわたり競争力上の優位を維持できると期待される成長企業を発掘することにより、ポートフォリオの構築を行いました。

**当ファンドのベンチマークとの差異**

(2015年7月23日～2016年7月22日)

市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

右記のグラフは、期中の当ファンドの期別基準価額騰落率です。



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

**分配金**

(2015年7月23日～2016年7月22日)

分配金につきましては、基準価額動向や保有株式の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税込み)

項 目	第10期
	2015年7月23日 ～2016年7月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	11,620

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

米国経済に関しては、堅調な雇用情勢などを背景に全般に底堅く推移しており、今後も緩やかな成長基調を辿るものと予想されます。

金融政策については、FRBは2015年12月の米連邦公開市場委員会(FOMC)において金融政策の正常化に着手しました。今後については、経済動向を見極めながら、慎重に追加利上げの時期を探っていくものと思われます。

株式市場については、米国経済が緩やかな成長基調を続けるものと見込まれる中、株価は底堅く推移するものと予想されます。ただし、FRBによる金融政策の動向には引き続き注意が必要です。

為替相場については、米国経済が緩やかな成長基調を継続すると予想される一方、日本では日銀による積極的な金融緩和策が継続されると見込まれることから、米ドルは対円で底堅く推移するものと考えております。

当ファンドにおきましては、これまでと同様に、市場環境を注視しながら、投資魅力度の高い銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行う方針です。

## お知らせ

該当事項はございません。

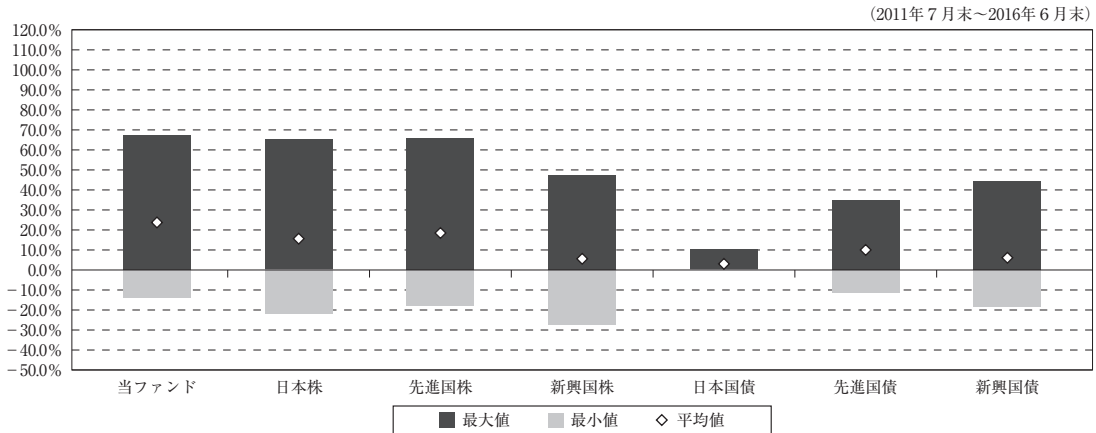
## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	主として魅力的な成長が見込めると判断する大型の米国企業の発行する株式を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指します。	
主要投資対象	当ファンド	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。 なお、株式等に直接投資する場合があります。
	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	主として米国に所在する企業の発行する株式を主要投資対象とします。
運用方法	当ファンド	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。
	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	決算日（原則として毎年7月22日、休業日の場合は翌営業日）に、収益分配方針に基づいて分配を行います。	



## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位：%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	67.1	65.0	65.7	47.4	10.1	34.9	44.1
最小値	△13.8	△22.0	△17.5	△27.4	0.4	△11.2	△18.1
平均値	23.6	15.5	18.4	5.4	2.9	10.0	5.8

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年7月から2016年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

## \*各資産クラスの騰落率を計算するために使用した指数

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、ヘッジなし・円ベース)

日本国債：シティ日本国債インデックス (円ベース)

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：シティ新興国市場国債インデックス (ヘッジなし・円ベース)

(注) 海外の指数は、各資産クラスに為替ヘッジなしによる投資を行うことを想定して、円ベースの指数を採用しております。

(注) 上記各指数に関する著作権、知的財産権その他の一切の権利はその指数を算出、公表しているそれぞれの主体に帰属します (TOPIX：株式会社東京証券取引所、MSCIコクサイ・インデックスおよびMSCIエマージング・マーケット・インデックス：MSCI Inc.、シティ日本国債インデックス、シティ世界国債インデックス、シティ新興国市場国債インデックス：Citigroup Index LLC)。また、それぞれの主体は当ファンドの運用に関して一切の責任を負うものではありません。

## 当ファンドのデータ

## 組入資産の内容

(2016年7月22日現在)

## ○組入上位ファンド

銘柄名	第10期末
LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	100.8%
組入銘柄数	1銘柄

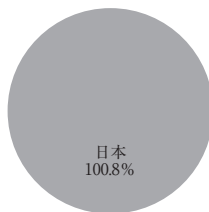
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

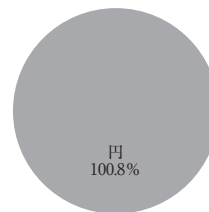
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は組入資産（現金等を除く）の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産（現金等を除く）を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

## 純資産等

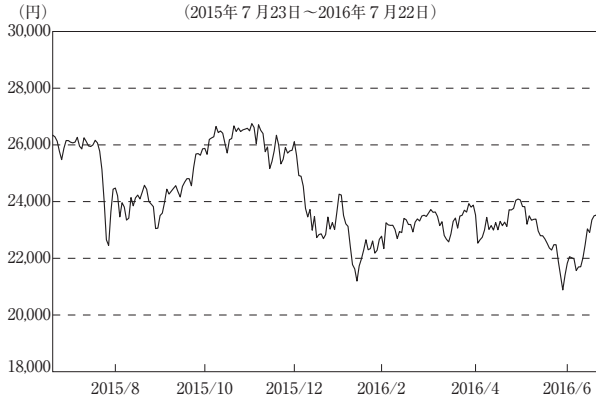
項目	第10期末
	2016年7月22日
純資産総額	251,885,569円
受益権総口数	127,350,751口
1万円当たり基準価額	19,779円

\* 期中における追加設定元本額は20,879,069円、同解約元本額は16,351,231円です。

## 組入上位ファンドの概要

## LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド

## 【基準価額の推移】



## 【1万口当たりの費用明細】

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株)	4 (4)	0.018 (0.018)
(b) 有価証券取引税 (株)	0 (0)	0.000 (0.000)
(c) その他費用 (保の管の費(用)) (そ の 他)	43 (42) (1)	0.175 (0.172) (0.003)
合計	47	0.193

期中の平均基準価額は、24,319円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

(2016年7月22日現在)

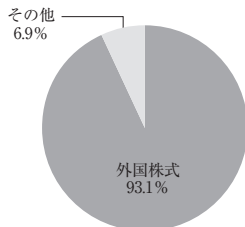
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス	米ドル	アメリカ	4.5%
2	MICROSOFT CORP	情報技術	米ドル	アメリカ	3.2%
3	CVS HEALTH CORPORATION	生活必需品	米ドル	アメリカ	3.1%
4	ALPHABET INC-CL C	情報技術	米ドル	アメリカ	3.0%
5	SCHLUMBERGER LTD	エネルギー	米ドル	キュラソー	2.9%
6	COMCAST CORP-CLASS A	一般消費財・サービス	米ドル	アメリカ	2.8%
7	HOME DEPOT INC	一般消費財・サービス	米ドル	アメリカ	2.7%
8	CELGENE CORP	ヘルスケア	米ドル	アメリカ	2.7%
9	VISA INC-CLASS A SHARES	情報技術	米ドル	アメリカ	2.7%
10	UNITEDHEALTH GROUP INC	ヘルスケア	米ドル	アメリカ	2.7%
	組入銘柄数			47銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

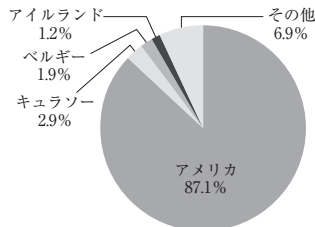
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

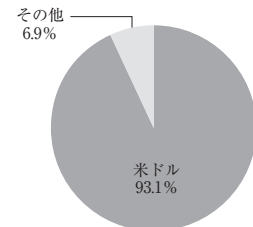
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は組入資産(現金等を除く)の当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 通貨別配分は組入資産(現金等を除く)を通貨で区分したものであり、通貨変動に伴うファンドの価格変動リスクと異なることがあります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。